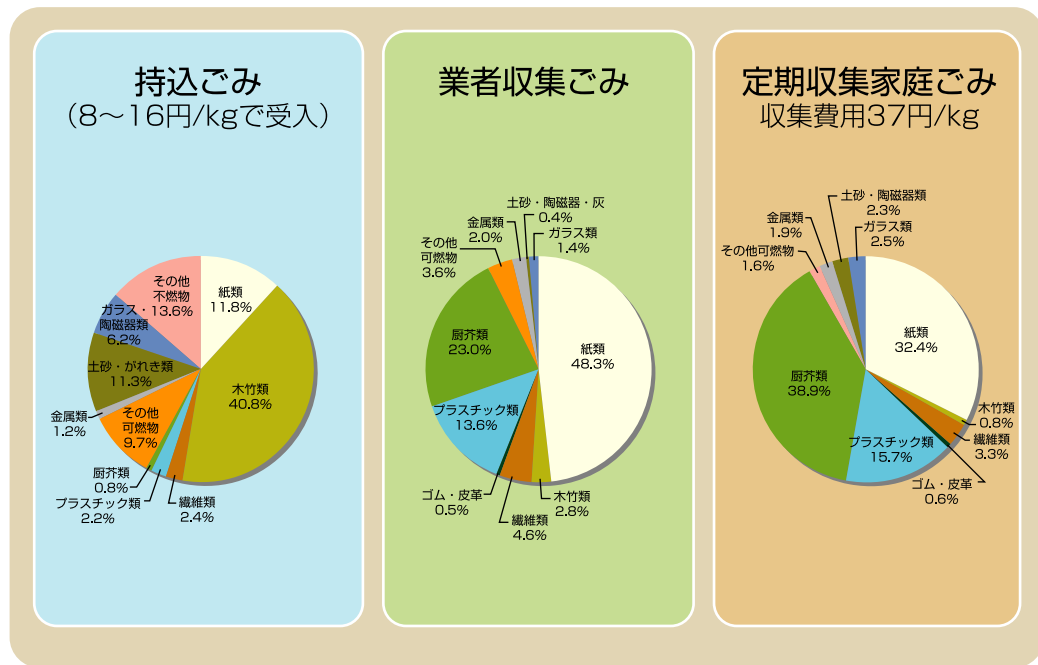




現在の中心的な
処理システム

減量のため焼却が中心

可燃ごみ
72.9万t/年

焼却処理費
19円/kg

不燃ごみ
3.4万t/年

依存

最終処分場
に埋立

6円/kg
15.6万t/年

京都市は内陸都市
であるため
新たな処分地確保に
一定の限界がある

埋立処分量の究極的削減と
環境への総合的負荷の低減と
これからの方向性は？

現在のごみ処理システムをベースに物理組成別に捉えた課題

《プラスチック類》

- ・容器包装については容器包装リサイクル法ルートが存在（一部費用を特定事業者*が負担）
- ・異なる樹脂や複合素材などでマテリアルリサイクルに困難性（プラスチック製容器包装）
- ・熱量が高くエネルギー回収が効果的
- ・かさばるため収集運搬が高コスト

《紙類》

- ・容器包装については容器包装リサイクル法ルートが存在（一部費用を特定事業者*が負担）
- ・紙製容器包装や雑誌は製紙原料として低質。供給過剰気味
- ・古紙市況で雑誌類の市収集ルートへの流入量に変化
- ・OA用紙の使用量も多い事務所からの排出量も多い

《厨芥類》

- ・事業系に対して食品リサイクル法が成立
- ・観光都市京都都市の特性
- ・プラスチック・紙を分別すると、清掃工場での発熱量低下
- ・焼却以外の処理技術の台頭（エネルギー資源、又は有機性資源として活用）
- ・都市部で一般家庭の分別収集は容易ではない

* 特定事業者：容器の利用・製造等及び包装の利用事業者

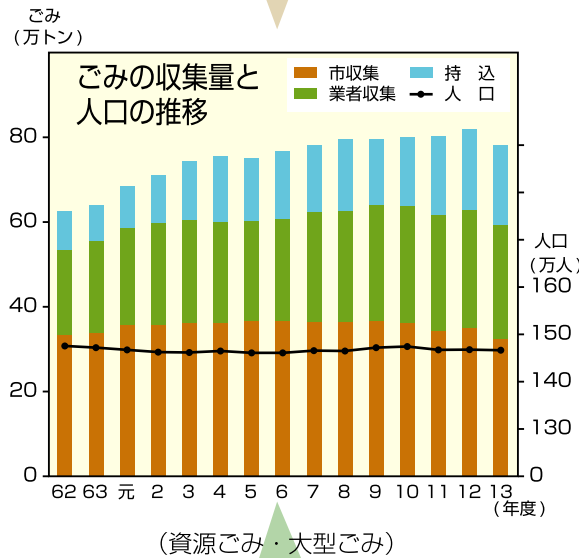
戦略的環境アセスメント(SEA)による環境面からの検証

資料

京都市の
廃棄物処理システム
に関する現状、課題



(出たごみをどうするか?)



将来の社会経済シナリオ

- ・社会の変化の方向と不確実性
- ・ごみの発生を取り巻く変化

循環型社会(都市)の構築

- ・適正生産
- ・適正消費
- ・最少廃棄

京都市の
廃棄物処理
システムの
将来像は？

京都市が自ら処理すべき廃棄物とは？

- ・民間では適正処理／施設整備が困難な廃棄物があるか
- ・民間より安価に処理できる廃棄物があるか

京都市の財産 = 現有の施設・人・知見蓄積 + 公の信頼感

広域的な工業系リサイクルに適していると考えられる製品

- ・容器包装リサイクル法は自治体の費用負担が重い
- ・使い捨て容器が減らない

- ・回収率を向上させる仕組みづくりが必要
- ・雑誌類は回収してもらえないことがあるなど、市民から見て古紙排出に不便がある

- ・有害な恐れのある廃棄物については、透明性の高い形で適正処理の確保が必要

- ・市の施設では十分なリサイクルが困難

- ・不法投棄の増大？

課題

